

▶第24回通常総会

昭和45年5月20日(水)10:00~
11:20 東条会館ホールにおいて開催。
出席会員:95名
委任状提出会員:1,928名

(開催にさきだち出席会員数ならびに委任状提出会員数を報告,昭和45年3月31日現在正会員数8,998名,定款第18条による1/5以上出席をもつて第24回通常総会が成立したことを報告)

北村理事の閉会の辞にはじまり,斉藤会長のあいさつのち,同会長議長となりつぎの議案を審議した。

第1号議案:昭和44年度事業報告の件。
稲川担当理事より昭和44年度における事業活動の詳細説明が行なわれ,報告どおり確認された。

第2号議案:昭和44年度決算報告の件。
河原担当理事より詳細説明が行なわれ報告どおり確認された。

ついで,宮田監事より昭和44年度決算について監査の結果,正確かつ適正である旨報告が行なわれた。

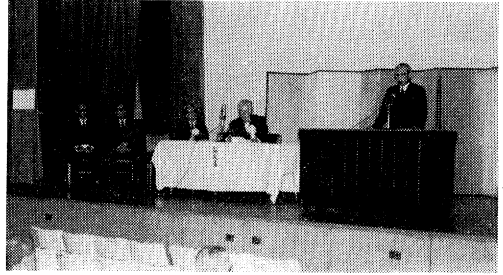
第3号議案:昭和45年度事業計画の件。
高橋担当理事より昭和45年度事業計画について説明が行なわれ,報告どおり確認した。

第4号議案:昭和45年度予算に関する件。
河原担当理事より昭和45年度予算について詳細説明が行なわれ,報告どおり確認された。

第5号議案:名誉会員推せんの件。
本件,斉藤議長より詳細なる経過報告が行なわれ確認された。

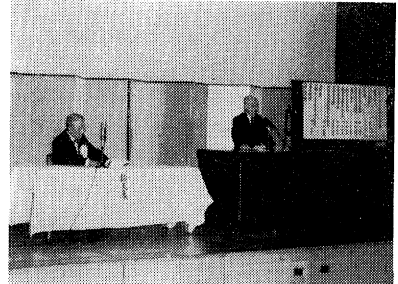
名誉会員:吉城肇蔚殿(前副会長)
つづいて吉城名誉会員からあいさつが行なわれたのち,総会を一時中断して別室にて第1回評議員会ならびに第1回理事会を開催したのち11:15より福川評議員から昭和45—46年度の会長,支部長,理事,監事の選出結果報告が行なわれこれを確認した。

第24回通常総会,壇上は事業▶
報告を行なう稲川理事

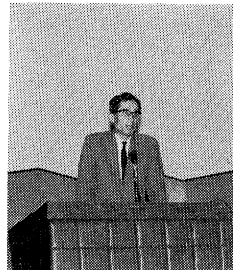


監査報告を行なう宮田監事
(中段写真)

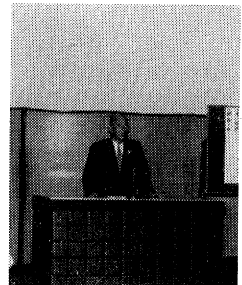
▼あいさつする斉藤会長



決算,予算の報告を行なう
河原理事



事業計画の報告を行なう
高橋理事

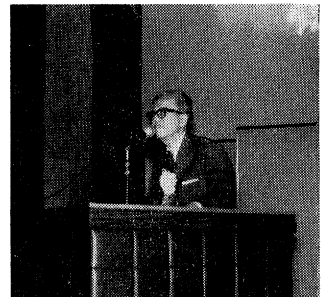


役員選出報告を行なう
福川評議員

以上,全議案の確認が行なわれたのち北村理事の閉会の辞により終了した。

▶第20回自動車技術会賞授賞式

昭和45年5月20日(木)11:25~
12:00 東条会館ホールにおいて開催。
斉藤会長のあいさつのち田中敬吉審査委員長から審査経過報告が行なわれ,学術賞2件(5名),技術賞3件(3名)



あいさつする吉城名誉会員

による下記の授賞が行なわれた。

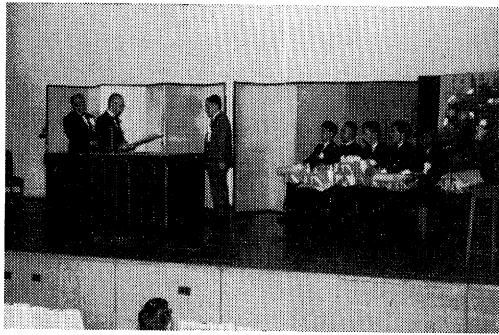
<学術賞>

コーナリングフォースにおよぼす制動力および駆動力の影響の理論的考察
酒井秀男君(JARI)

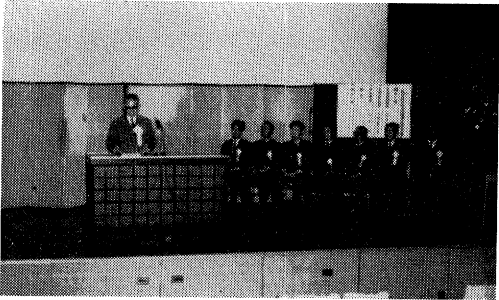
(授賞理由)タイヤのゴム材と路面間に働く力を最大摩擦とすべり摩擦で表現しタイヤを新しいモデルでシミュレートすることによってタイヤに発生する制動力



審査経過報告を行なう
田中審査委員長



技術会授賞式



小林 明名誉会員のあいさつ

力駆動力、サイドフォースおよびセルフアライニングトルクを理論的に求める方法を示し、かつこれが実験の結果とよく一致することを示したもの。(対象論文は自動車技術, Vol. 23, No. 10, 1969.)

(略歴) 昭和7年6月28日生れ。昭和32年名古屋大学理学部物理学科卒。日本ダンロップ護膜工業(株)へ入社。タイヤの構造、解析、特性の研究に従事し、昭和44年 JARI 第3部へ移り、現在同所でタイヤの研究を担当。

＜学術賞＞

操舵を加えたばあいの自動車の動的特性

河野俊之君、土屋俊二君、薦田紀雄君、牧賢次君(トヨタ自動車工業株式会社)

(授賞理由) 定常的、過渡的な操縦動特性を人間のフィーリングとむすびつけて総合的に把握できる試験方法を開発。また、7自由度操舵応答モデルの作成による理論解析と前記試験法を用いた実験解析によって車両諸元を操縦特性との関連性を解明するとともに設計に役立つ資料を提供。これにより操縦性安定性に関する単一的試験によるぼう大な試験期間の短縮をはかった。(対象論文は自動車技術, Vol. 23, No. 4, 1969.)

(略歴)

河野俊之君：大正10年11月20日生れ。昭和20年京都大学工学部航空学科卒。昭和24年トヨタ自工へ入社。エンジンの、実験部門に勤務し車両特性、車の運動特性

に関する実験研究業務に従事、現在同社第8技術部長。

土屋俊二君：昭和11年4月25日生れ。昭和34年名古屋大学工学部機械工学科卒。トヨタ自工へ入社、同社実験部門に従事、現在第8技術部第1実験課係長。

薦田紀雄君：昭和15年7月16日生れ。昭和40年京都大学大学院修了。トヨタ自工入社、実験部門に勤務、ニューヨーク駐在を経て現在第8技術部第1実験課。

牧賢次君：昭和19年3月28日生れ。豊橋工業電気科卒。トヨタ自工へ入社、実験部門に勤務、現在第8技術部第1実験課。

＜技術賞＞

自動車用電装品の技術進歩向上に関する貢献

岩崎賢君(機械試験所)

(授賞理由) 永年にわたり自動車用電装品の性能試験により、その品質向上をはかり安定した製品の設計製作に貢献しあわせて標準化を推進した。

(略歴) 大正5年1月7日生れ。昭和12年早稲田大学付属工手学校機械科卒。元陸軍技術本部で戦車、車両用電装品の設計、研究に従事。昭和20年機械試験所に移り、現在同所自動車安全公害部主任研究官。

＜技術賞＞

自動車部品の材質向上、生産技術改善に関する永年にわたる実績

鈴木久実君(豊田中央研究所)

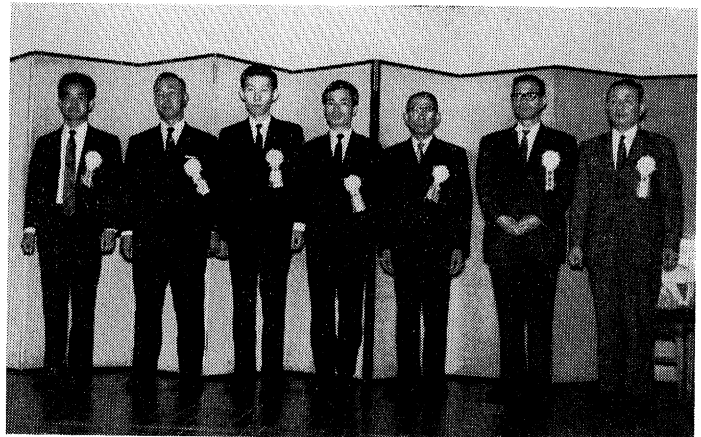
(授賞理由) 昭和23年トヨタ自工へ入社。金属材料技術者として鋳造、鍛造、熱処理などの各分野にわたりすぐれた試験研究を行ない、部品の材質向上、生産技術の改善につくした。また、豊田中央研究所に移籍後も上述の独創的な研究を推進し、部品の品質、生産性の向上に顕著な実績をあげた。

(略歴) 大正3年10月4日生れ。昭和8年宮城県工業学校機械電気科卒。昭和9年東北帝国大学金属材料研究所へ入所。昭和23年トヨタ自工へ入社、技術部物理試験、生産技術部開発課勤務。昭和36年豊田中央研究所へ移籍、現在金属材料主任技師。

＜技術賞＞

自動車部品に関する専用工作機の開発と部品製造法の確立。

石川正君(トヨタ自動車工業株式会社)



受賞者諸君(左から酒井、河野、土屋、薦田、岩崎、鈴木、石川の諸君)

（授賞理由）昭和9年豊田自動織機入社以来自動車の試作部品の汎用工作機械による加工法の研究、量産に適した加工法の研究、社内で製造する専用工作機械の製造などに従事し、その経験と創意を基に新製品の設計者、新設備計画担当者のよきスタッフとして生産性の向上、新製品開発の円滑化、専用工作機械の製造期間の短縮などに多大の貢献をなした。また、昭和25年から加工技能者、技術者の指導育成に努力した。

（略歴）大正5年1月1日生れ、昭和9年豊田自動織機製作所自動車部に入社。昭和13年トヨタ自工へ移り、同社工機工場に勤務、現在第1生産技術部次長、工機課長。

▶昭和45年春季学術講演会

昭和45年5月20日（水）、21日（金）にわたり東条会館ホールにおいて開催。

第1会場では5月20日 9：00～17：20 5月21日は2会場で 9：10～17：40、40の講演が行なわれた。（詳細は自動車技術、Vol. 24, No. 5, 1970. p. 522～527. に記載）

▶春季大会懇親会

昭和45年5月20日（水）18：00～19：30 東条会館において開催、60余名の参加をえて盛会裡に終了した。

▶春季大会見学会

昭和45年5月22日（金）7班にわかれて見学会が開催された。

第1班：日産自動車・追浜工場、日本

発条（本社）の2社（参加者95名）

第2班：日野自工・羽村工場、ブリヂストンタイヤ・東京工場の2社。（参加者42名）

第3班：住友金属工業・鹿島製鉄所、

鹿島港見学（参加者 名）

第4班：小糸製作所・静岡工場、登呂

遺跡の見学（参加者50名）

第5班：トヨタ自工・高岡、上郷工場

（参加者90名）

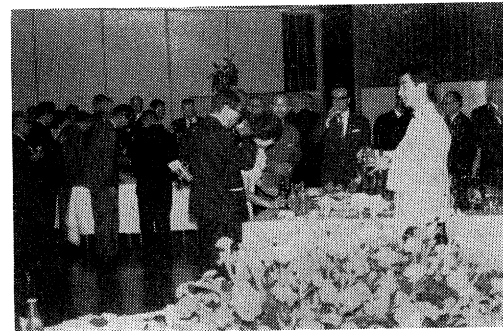
第6班：ダイハツ工業・池田工場、東

洋ゴム工業・伊丹工場の2社

（参加者30名）

第7班：東洋工業・本社、宇品工場と

宮島見学。（参加者38名）



懇 親 会